

「神戸水道ビジョン」の改定について

1. 改定の趣旨

- 「神戸水道ビジョン」は、国土交通省の要請に基づいて策定した計画であり、「神戸市総合基本計画」の部門別計画として、神戸水道の基本的な方向性を示す「基本理念」と「目指す姿」を定めたものである。
- 創設125年を迎えた神戸水道において、人口減少やそれに伴う水需要の減少、施設老朽化による更新需要の増大、物価上昇、災害対応、技術継承など、事業を取り巻く環境はさらに厳しくなっていくことが想定される。
- 50年後、100年後の将来も安全・安心な水を安定して供給するため、水道事業の目指すべき方向性を整理し、2025(令和7)年度末に期間満了となる「神戸水道ビジョン」を改定するものである。

2. 目標年次

2050年頃(令和32年頃)

3. 計画内容

(1) 基本理念

- 将来にわたり市民生活や社会活動を支え続ける神戸水道

(2) 目指す姿

- ① 安全・安心な水を安定して供給する強靱な水道
いつでも安心して蛇口から水が飲める水道を維持し、どんな時でも神戸のまちを支える強靱な水道を実現する
- ② 健全経営かつ持続可能な事業運営を実現する水道
人口が減少していく中においても、将来にわたり持続可能で、安定した神戸水道の事業運営を実現する
- ③ 利用者から信頼され次世代を見据えた水道
利用者目線に立ち、双方向のコミュニケーションで信頼関係を築きながら、次世代に誇れる神戸水道を実現する

4. 備考

- 「神戸水道ビジョン」の下位計画として「神戸水道経営戦略」を定めており、経営の基本方針と4年間の重点施策、12年間の投資・財政計画などの個別具体の事項を記している。



「神戸水道ビジョン」改定案に対する市民意見募集の結果

○募集期間 2026年1月28日（水）～2026年2月27日（金）

○ご意見 2通（7件）

参考意見1通（1件）

※要件不備の意見がありましたので、参考意見として取り扱っています。

○意見の概要と市の考え方

※ご意見は主旨を損なわない程度に要約しています。

	意見の概要	市の考え方
1	スマートメーターとはどのようなものか、注釈でその機能がわかる説明を追記して欲しい。	スマートメーターとは、水道メーターに、通信機能が内蔵されたもので、使用水量を自動で計測・記録し、データ送信することができます。（P.7に注釈を追加します。）
2	人口減少の将来を見据えるのなら、メーター検針員が全戸訪問しなくても済むシステム構築は検討しないのか。	人口減少社会を見据え、水道局では、自動で水量を計測、記録するとともに通信機能を有し、効率化・省力化が可能となるスマートメーターの導入について検討しています。
3	水道管の更新工事について必要性は理解しているが、自分の住む地域の安全性や今後の工事の見通しなど、具体的な進捗に関する広報を実施して欲しい。	水道管は複雑につながっているため、工事の進捗とお住いの地域の安全性を一概に説明することが難しく、広報の方法が課題となっています。 水道局としては水道管更新の進捗情報については、水道管の耐震化の状況や更新時期を迎えた管路の延長を、ホームページ等を通じて情報発信し、より市民の皆様へ伝える広報の方法について今後も検討したいと考えています。
4	人材確保と技術継承に力を入れていただきたい。水道局現業職員が業務と直接関係のないSPIを受験させられているという話を聞いたが、どのような意図で実施しているのか。無意味な試験はやめるべきではないか。また、職員の研修や自己啓発などの機会は設けているのか。職員が職場でどう成長していくかイメージできる組織づくりが大切だと思う。	水道局における採用などの試験は、市職員として求められる資質や、業務を行ううえで必要な能力・知識を総合的に判断する内容です。 また、老朽施設の改築や更新を進め、将来にわたって安全・安心な水を安定してお届けしていくため、人材の確保や技術の継承が大切だと考えています。 そのため、水道局の業務に必要な専門知識を習得する研修の実施や、資格取得に必要な費用の支援などに取り組んでいます。今後も、研修の実効性なども検証し、職員一人ひとりが成長を実感しながら、意欲をもって仕事に取り組める組織づくりに努めます。
5	市内の水道水から有機フッ素化合物PFASが検出されている。改定案はPFASについて言及されていないが、安心安全の水質確保に含まれているのか。明石市や阪神水道企業	水道局では、PFASを含む水道水質に関する具体的な計画として、毎年「水質検査計画」を策定しており、この策定の際には、阪神水道企業団等の他団体と連携して取り組んで

	<p>団との密接な連携や、保健所と共同で住民の健康診断実施などやるべきことはたくさんある。PFAS 問題の特別な対策計画の策定予定はあるのか。</p>	<p>います。</p> <p>なお、水道局の水道水の PFAS 濃度は現時点で水道法が定める水質管理目標値の 5 分の 1 以下と低く、2026 年 4 月から水道事業者に基準順守が義務化される水質基準値の 50ng/L を超えて検出されたことはありません。</p>
6	<p>水道修繕受付センターについて明記されているのは評価できる。悪徳業者対策として水道修繕受付センターのステッカーを全戸配布した取り組みは良かった。今後も 5 年毎など定期的に全戸配布してほしい。また、近隣自治体と連携してスケールメリットを確保したらよいのではないか。</p>	<p>水道修繕受付センターについては、これまでも「検針票裏面への広告掲載」や「広報紙 KOBE や婦人神戸」への広告掲載などにより周知を図ってきましたが、最も PR 効果があった取り組みとしては、ご指摘のステッカー全戸配布だと考えています。</p> <p>現在、新規水道利用者にはステッカーを配布していますが、数年以内には、再度全戸配布することを予定しています。</p> <p>なお、水道修繕受付センターの近隣自治体との連携に関しては、受託者が業務拡大に対応できるのかなどの問題があることから、将来の検討課題とさせていただきます。</p>
7	<p>パブリックコメントの結果公表の際、他の市民の方がどのような意見を出されているのか共有できることに意義があると思う。寄せられた意見は省略せず公表してほしい。</p>	<p>いただいたご意見の全文についても、別途、参考資料としてホームページに公開いたします。</p>

(参考意見)

参考意見の概要	
1	<p>改定案は具体性がなく、新しい要素もないと感じた。改定する意義も分かりにくい。ビジョンの改定に伴う経営戦略の改定は予定しているのか。</p>

神戸水道ビジョン（改定版）

2026年3月

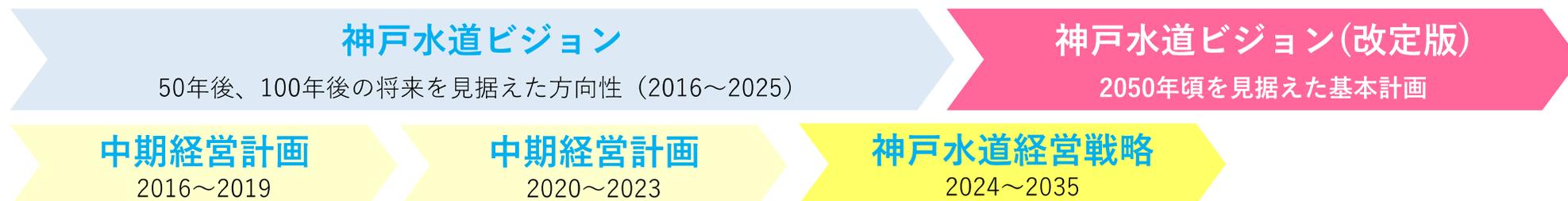
＊神戸市水道局

趣旨

- ・水道事業の目指すべき方向性を示した「神戸水道ビジョン」が、2025(令和7)年度末に期間満了となります。
- ・創設125年を迎えた神戸水道において、人口減少やそれに伴う水需要の減少、施設老朽化による更新需要の増大、物価上昇、災害対応、技術継承など、事業を取り巻く環境はさらに厳しくなっていくことが想定されます。
- ・このような中、50年後、100年後の将来も安全・安心な水を安定して供給するため、水道事業の目指すべき方向性を整理し、**2050年頃を見据えた基本計画として「神戸水道ビジョン」を改定**するものです。

位置付け

- ・2050年頃を見据えた神戸水道の「基本理念」と「目指す姿」を設定するもので、国土交通省が策定を要請する水道事業ビジョンとしての位置付けです。また、総務省の要請により策定した「神戸水道経営戦略」の上位計画です。
- ・「神戸市総合基本計画」と連携し、「水道」に関する部門別計画としての位置付けです。



【基本理念】 将来にわたり市民生活や社会活動を支え続ける神戸水道

これまで

- ・1900(明治33)年に給水を開始して以来、**水道は神戸の市民生活や社会活動を125年にわたって支えてきました。**
- ・大きな川や湖がなく、起伏に富んだ地形である神戸において、市域の拡張や都市の発展にあわせて行ってきた水源の確保や施設の構築は、先人が残してくれた貴重な財産です。過去の大水害や戦争、大震災では、水道施設も大きな被害を受けましたが、そのたびに全力をあげて復旧を果たしてきました。

現在

- ・このような中、神戸の人口は、2011(平成23)年の154万人をピークに減少傾向、水需要は1992(平成4)年以降減少傾向に転じています。また、高度経済成長期である1960年代後半から約20年間に布設した多くの水道管は、現在、更新時期を迎えています。
- ・近年、大雨や地震など多様な災害が全国各地で発生しています。また、昨今の物価高騰も水道事業経営に大きな影響を与えています。

これから

- ・水道は、現在も、未来においても、**神戸にとって必要不可欠なライフライン**です。
- ・これまで培ってきた**水道を支えてきた技術や、課題を乗り越えてきた挑戦する姿勢**を、今後もしっかりと継承し、これからも、**安全・安心な水を安定して供給することで、神戸の暮らしを支え続けていきます。**

【基本理念】 将来にわたり市民生活や社会活動を支え続ける神戸水道

基本理念の「将来にわたり市民生活や社会活動を支え続ける神戸水道」であるため、2050年頃を見据えて、次の目指す姿を設定します。

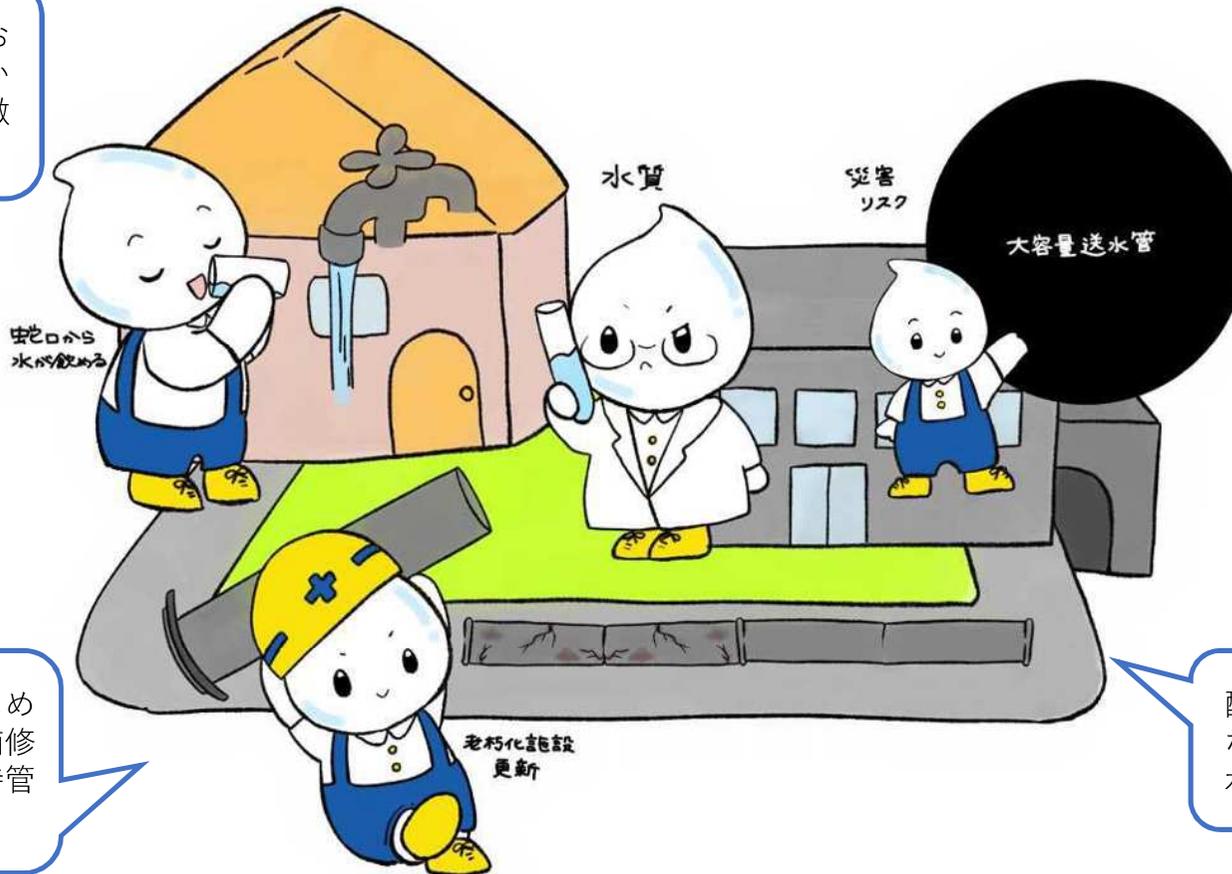
【目指す姿】

- ①安全・安心な水を安定して供給する強靱な水道
- ②健全経営かつ持続可能な事業運営を実現する水道
- ③利用者から信頼され次世代を見据えた水道

目指す姿① 安全・安心な水を安定して供給する強靱な水道

いつでも安心して蛇口から水が飲める水道を維持し、どんな時でも神戸のまちを支える強靱な水道を実現します。

安全で安心な水道水をお届けできるよう、水源から蛇口まで水質管理を徹底します



地震や気候変動による豪雨・渇水など様々な事象においても、市民生活への影響を最小化できるよう備えます

浄水場や配水管をはじめとする資産の点検・補修を強化し、適切に維持管理します

配水管など老朽化施設の計画的な更新を進め、市民に安定的に水道水をお届けします

目指す姿② 健全経営かつ持続可能な事業運営を実現する水道

人口が減少していく中においても、将来にわたり持続可能で、安定した神戸水道の事業運営を実現します。

他事業体との広域連携や官民連携により、さらなる業務の効率化を図ります

広域
連携

脱炭素

効率的な
業務
DX, AI

DXを推進し、AIなど新技術を活用した業務の効率化を図ります

更新投資のため安定した財源の確保を目指します

省エネルギーや再生可能エネルギー導入に取り組み、脱炭素社会への貢献を目指します

技術
継承

効率的な組織体制の確立と人材確保・技術継承により、持続可能な経営基盤を構築します

目指す姿③ 利用者から信頼され次世代を見据えた水道

7

利用者目線に立ち、双方向のコミュニケーションで信頼関係を築きながら、次世代に誇れる神戸水道を実現します。

利用者目線に立ち、双方向コミュニケーションにより信頼関係を築いていきます

スマートメーターやAIなどの新技術を導入し、利用者の利便性向上を図ります

水回りトラブルに関する「水道修繕受付センター」により、暮らしの安心を支えます



水道料金や水質データなど、利用者が必要な情報をわかりやすくタイムリーに発信し、安心してお使いいただけるよう努めます

スマートメーター：水道メーターに、通信機能が内蔵されたもの。使用量を自動で計測・記録し、データ送信することができる。

參考資料

【参考1】神戸水道のあゆみ①（水道事業創設～水源確保）



水源の拡張

- 1919年(大正8年)
千苺貯水池大堰堤の完成
市内最大の自己水源として千苺貯水池と上ヶ原浄水場を整備し、水需要の増加に対応
- 1936年(昭和11年)
阪神水道企業団が設立
阪神間の市町と連携して淀川に水源を確保

阪神水道は日本初の用水供給事業者であり
広域化の先進事例



完成直後の千苺貯水池大堰堤

1900 事業創設

- 1900年(明治33年)
全国で7番目の近代水道として給水開始
布引貯水池を水源として、奥平野浄水場で処理した水を給水

布引貯水池五本松堰堤は日本最古の重力式
コンクリートダムとして現在も供用中

- 1905年(明治38年)
烏原貯水池立ヶ畑堰堤の完成
奥平野浄水場の2つ目の水源として整備



完成直後の布引貯水池五本松堰堤

1930 1940

阪神大水害と神戸大空襲

- 1938年(昭和13年)
阪神大水害の発生
豪雨による土砂災害等による被害で全市的に断水となり応急復旧に3ヶ月を要した
- 1945年(昭和20年)
神戸大空襲による被害
貯水池以外のすべての施設が被害を受け漏水率は80%になり全市で出水不良に

【参考1】神戸水道のあゆみ②（阪神水道からの受水～市民皆水道）



給水の安定化

- 1967年(昭和42年)
千苺浄水場が完成
北区一円の安定的な水源の確保として整備
水源となる千苺貯水池の水質改善として、日本で初めての底層水循環装置を導入(1988)
- 1968年(昭和43年)
市街地で遠隔監視制御システムを導入
膨大な施設の複雑な送水を遠方で集中管理
施設数が多い神戸にて日本で初めて導入



初期の遠隔監視制御の管理室

1940 阪神水道から受水

- 1942年(昭和17年)
阪神水道の送水施設が完成
淀川系の水を市街地東部で受水開始
- 1957年(昭和32年)
阪神水道から受水した水を市街地西部まで送るための3 拡送水トンネルが完成
- 1964年(昭和39年)
阪神水道からの受水体制拡張として2 本目の4 拡送水トンネルが完成

これ以降は渇水による時間断水は実施していない

1960



3 拡送水トンネルの掘進状況

1970

西神地区への拡張と市民皆水道

- 1977年(昭和52年)
5 拡送水トンネルが完成
西神地区まで阪神水道の水を供給可能に
- 1985年(昭和60年)
給水開始後、85年の歳月を経て市民皆水道を達成
- 1988年(昭和63年)
兵庫県営水道(神出浄水場)からの受水開始

1980

【参考1】神戸水道のあゆみ③（阪神淡路大震災の発生～現在）



安定供給に向けて

● 2005年(平成17年)

水質試験所でISO9001認証の取得

信頼性保証体制構築のため、全国に先駆けて品質マネジメントシステムの認証取得

● 2016年(平成28年)

大容量送水管が完成(震災翌年から整備)

高い耐震性能に加え、災害時には応急給水拠点として機能し、全市民の約12日間分の飲料水を確保(1人1日3L換算)



大容量送水管の内部(直径2.4m)

1990

2000

2010

2020

2030

阪神淡路大震災の発生

● 1995年(平成7年)

兵庫県南部地震の発生により、神戸市では広範囲で震度7の激震を記録し、全市域にわたる断水を余儀なくされた

全国からの応援の方々と不眠不休の復旧活動を行い、3か月後に応急復旧完了

● 2000年(平成12年)

事業創設から100周年を迎える



被災した本庁舎

現在とこれから

● 2025年(令和7年)～

強靱な水道施設を構築するための計画的な更新や、適切な維持管理を行っていく。

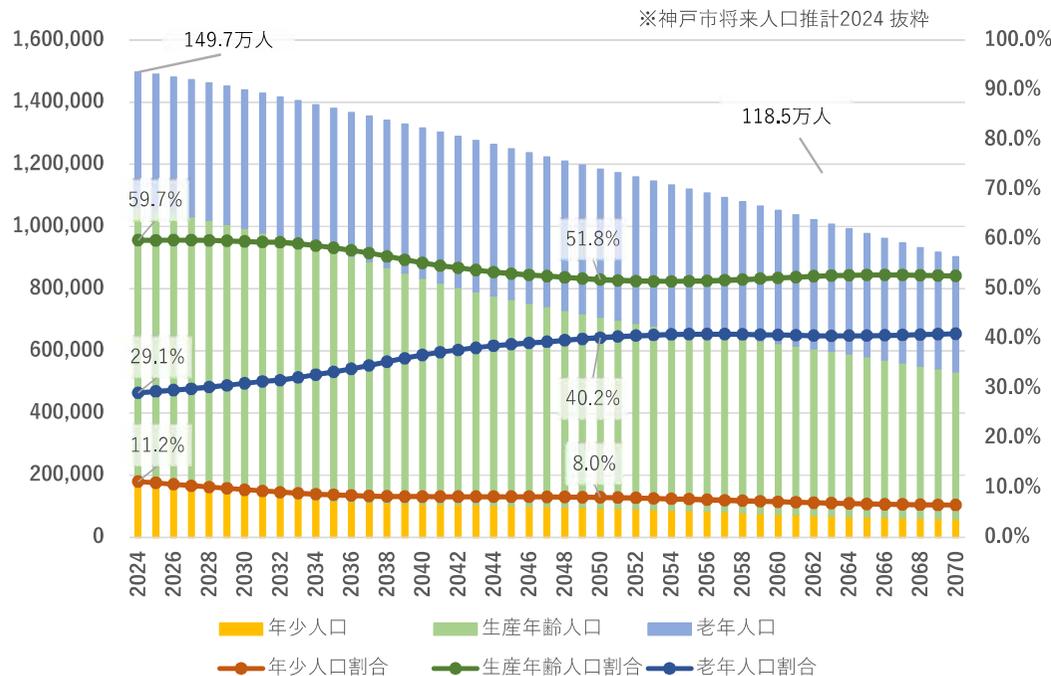
健全かつ安定した水道事業経営を確立し、安全・安心な水を安定供給し続ける使命を果たしていく。



人口・水需要の減少

◆ 人口減少や節水型社会の進展により、水需要の減少が続いています。今後も人口減少が見込まれ、これに伴い、給水収益も中長期的に減少する見通しです。

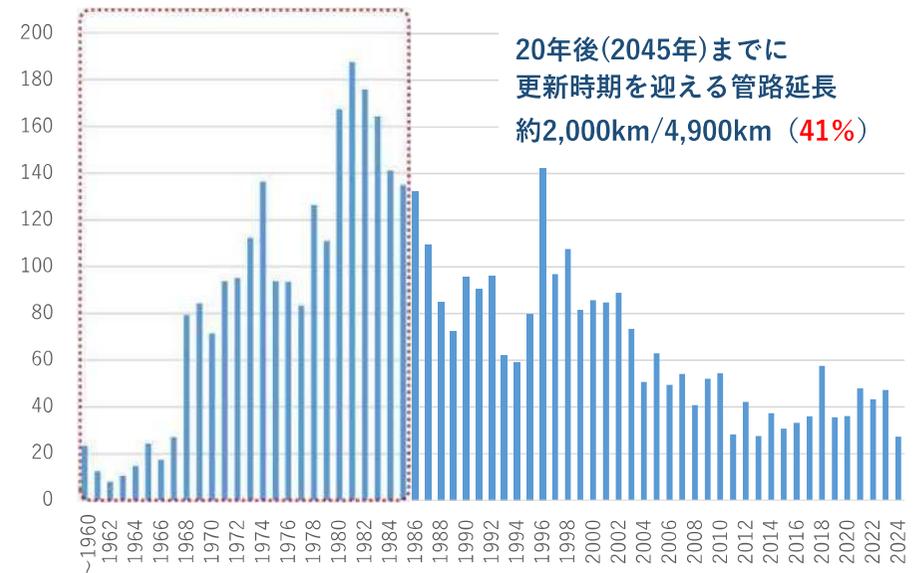
神戸市将来推計人口（2024～2070）



施設の老朽化、更新需要の増大

◆ 配水池や配水管など水道施設の多くは、1960年代後半から約20年の間に整備され、年々老朽化しています。今後、更新時期を迎える施設が増え、更新需要が増大します。

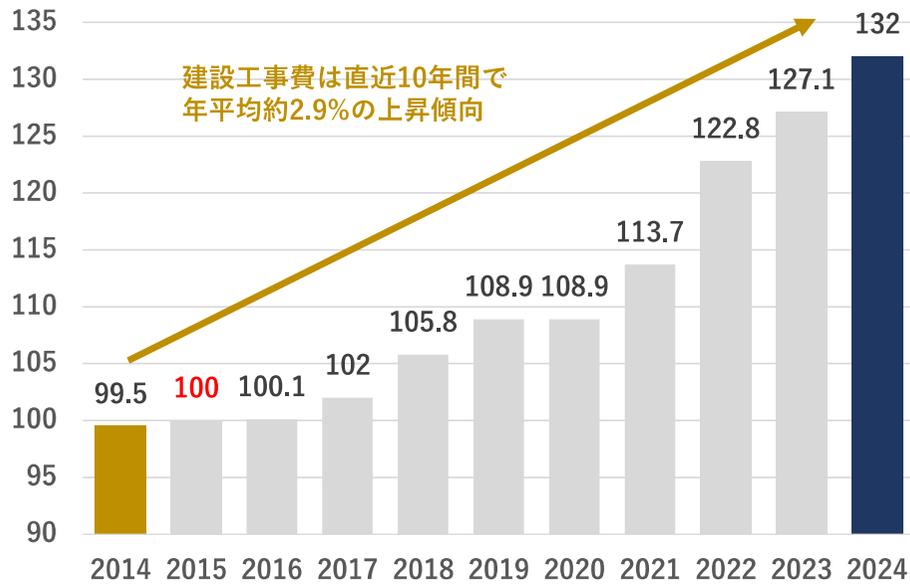
配水管の年代別布設延長 (km)



物価の高騰

- ◆ 昨今の世界情勢等による物価高騰の影響により、維持管理経費や工事費用が増加しています。

建設工事費デフレーター(上・工業用水道)の推移



※2015年度基準
※2024年は暫定値

自然災害の激甚化

- ◆ 近年、東日本大震災や熊本地震、能登半島地震など大規模な地震が発生しています。その他にも、台風や集中豪雨などの自然災害により土砂災害や長期広域停電などが発生しています。



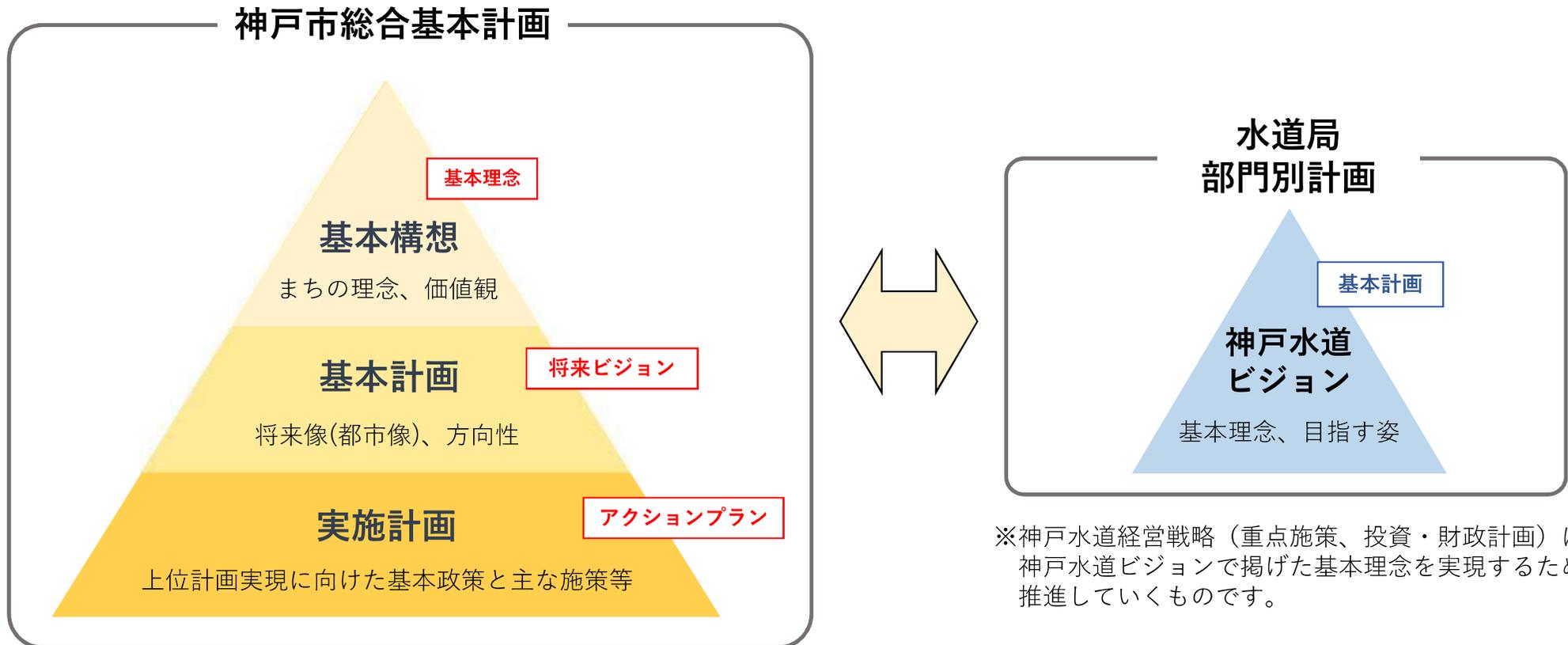
能登半島地震での復旧作業状況



静岡豪雨災害での応急給水支援

【参考3】神戸市総合基本計画との関係

14



- ・ 部門別計画は、総合基本計画が掲げる理念や取り組みの方向性と一体性を持ちます。
- ・ 「神戸水道ビジョン」は、水道局における部門別計画の位置づけです。